

Close-Up

Tough, but oh so gentle!

元女子聖学院短期大学長・現聖学院国際センター所長

W.G.クレアラ先生 & L.R.クレアラ夫人

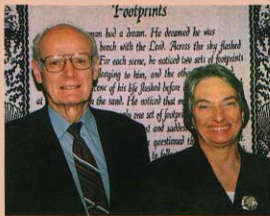
今号のクローズアップは今春、聖学院大学を退職された
W.G.クレアラ先生とL.R.クレアラ夫人にインタビューを
お願いしました

42年間の教育宣教師としての

歩みに迫ってみようと思いましたが、紙面に限りがあり、
それは無謀な試みであることに気がつきました。

インタビューの中で、これまで一度も

やめてアメリカに帰ろうと思ったことはないと語られた
その言葉に宣教師としてのスピリットを強く感じました。



聖学院との出会い

初めて日本にいられたのはいつですか。

WGクレアラ先生 実は教育宣教師としてくる前の一九五四年に兵隊として一年間芦屋に住んだことがあります。その後大学に戻り私が大学院の時に夫婦で教育宣教師として志願して、一九五九年九月十五日に日本にやってきました。

それから42年経つわけですね。日本を任地として希望されたのですか。

LRクレアラ夫人 宣教師団にはどこでもいという希望を出していました。最後に候補に残ったのが、日本とイラクでした。日本に来なければ、行くことになっていたイラクの学校は、革命が起こってキリスト教の学校ではなくなったと聞きました。

— そもそも宣教師になろうと思ったきっかけは何だったのですか。

WGクレアラ先生 私たちは同じ教会に所属していたのですが、そこ伝道集会で、海外で宣教していた人の話を聞く機会がありました。その時、将来キリスト教の仕事についてみないかという呼びかけに六、七人の若者が応えたのです。その中に私も妻もいました。私は大学生、妻はまだ15歳（高校生）の時の話です。

私は牧師の息子ですが、母は十人兄弟で、十人のうち女の兄弟はすべて牧師と結婚し、四人の男の子のうち三人までが牧師になりました。わたしにとって叔父にあたるわけですが、そのうち二人がインドに宣教師として行っていました。また父方の女の兄弟がインドと中南米で看護婦宣教師をしていました。兄も牧師として一九五〇年に会津高田に来ていまし

た。そういう影響があったと思います。

LRクレイラ夫人 よく宣教師の間ではこんな冗談を言います。

Because I believe in God, and I love to travel.

来日されてから聖学院に来られるまでのお話をお聞かせください。

WGクレイラ先生 渋谷の日本語学校に二年間通いました。その時は東北学院や宮城学院が関係する長老改革派宣教師団に属しておりましたので東京には住いありませんでした。王子のデイスイプルス派の宣教師館に住んでおられた牧師の一人が、休暇で一時帰国されることになり、そこに一年間の約束で住まわせてもらいました。それから、今度は今の女子聖中の旧宣教師館の二階に一年間住まわせてもらいました。その時、男子聖の授業を二クラス持ちました。これが聖学院との出会いですね。

LRクレイラ夫人 目白に住むか王子に住むか簡単に決めたんですが、もし目白の宣教師館にあっていたら違う道になっていたでしょうね。

WGクレイラ先生 日本語学校を終えて、やがて任地の話が出たのですが、その頃、長老改革派と同志社や東雲学園が属する組合派との合同の話が進んでいて、どちらからも宣教師が足りないで来てくれないかということがあって、板ばさみのような状態で迷っていました。その時、上川宣教師が聖学院から埼玉県の教会関係の仕事に変わり、その代わりに来てくれないかといわれたのです。それで、聖学院にいくという道もあるのではないかと海外宣教師会に言ったら、それで決まったのです。

— 今はない王子の宣教師館の思い出をお聞かせください。

LRクレイラ夫人 その当時のこと思い出すことがあります。森無川の改修に伴う区画整理で宣教師館の前の聖学院が保有する道路を舗装することになり、区が土地の提供を求めたのです。区の役人が私ひとりいるときに書類をもつてきて、あまりわからないままサインさせられてしまいました。後で宣教師館を管理するエジヤトン先生に恐る恐る報告したのを今でも覚えています。もちろんそのような権限は私には全くなかったのです。

WGクレイラ先生 そこにはハフ先生も住んでおられました。この先生がカンザスの教会を通して大木英夫先生の留学をバックアップしてくださったのです。昨年カンザスの教会（カンザス・カントリー・クラブ・チャーチ）に感謝を伝えるにきましたね。

聖学院中高の時代

— その当時ネイティブが英語を教えるということでは苦労が多かったのではないですか。

WGクレイラ先生 聖学院では、いままでも何人かの外国人宣教師が教えていましたので、めずらしいことではなかったのです。だから、それほど苦労はしませんでした。ただ職員会議の時にまだ30歳と若いのに、宣教師だからというので一番前の校長の近くに座らされるのです。これが何とも居心地が悪かったのですが、しばらくしてから、遅れていつて後ろに座るといふことを思い付き、それ以後いつもそれで切りぬけました。教科の他にペリアン会を指導しました。この会は戦時中、正規の授業

ウィリアム G. クレイラ

前女子聖学院短期大学学長・現聖学院国際センター所長

1931年米国ミズリー州生まれ。1953年ロッキーマウンテン・カレッジ卒（英文学専攻）。1959年スケリット・カレッジ大学院修了（英語学と文化人類学専攻）。1959年宣教師として来日。1961～71年聖学院高等学校教諭。1971～95年女子聖学院短期大学学長。1978～99年聖学院みどり幼稚園園長。1995年聖学院国際センター所長就任（現職）。1998年聖学院大学人文学部欧米文化学科教授就任。1996～2001年聖学院英語プログラム(SEP)主事。2001年3月聖学院大学を退任。著書「愛のうちを歩む」。



Close-Up



ラバーン R. クレーラ夫人

として聖書料を持てなかった時に出来た会なのですが、戦後もクラブ活動として続いています。私は讃美歌を歌うのが好きだったので、指導を引き受けたのですが、その時に生徒に坂東玉三郎（旧姓 榎原）がいます。彼は歌舞伎に専念するために高校二年の時に聖學院をやめたのですが、やはり讃美歌が好きでよく歌っていました。彼が戦後女形として初めてシエクスピア劇に挑んだ「マクベス」の公演のときに聖學院中高の先生と一緒に楽屋を訪ねました。また、二十数年ぶりの再会でしたが、女子聖學院短期大学の一期生の方と食事をしました。

聖學院中高では三年間勤めて、アメリカに研究に戻る時に送別会の席で先生の一人が「クレーラ先生は他のアメリカ人と違う」と言ってくれました。おそらく彼には、アメリカ人とい

う固定観念があったのでしよう。私の日ごろの姿勢を見て、日本人もアメリカ人も一緒にと感じてくれたのだと思い、その言葉をとてもうれしく感じました。

その後王子の宣教師館にしばらく住んだ後、一九六八年に異動しなければならなくなりました。その時、当時の男子聖の加藤事務長の紹介で沼袋にあった日銀総裁の速水優先生の自宅に二年間住んだことがあります。速水先生がイギリスに赴任されるということで留守宅を宣教師に貸したいということだったので、当時の思い出としては、私たちはルバーブというハーブが大好きで、庭に植えていたのですが、離れに住んでおられた速水先生のお母様がそのルバーブをフキと間違えられたといううなことがありました。実は私たちも来日して間もない頃、フキをルバーブと買って買ってきて、ジャムにして食べたことがありました。おそらく、ルバーブもフキも同じような植物なのでしようが、味は全然違いますね。（笑）

宣教師は本当に引越しが多いのですね。LRクレーラ夫人 それが楽しかったともいえますね。

WGクレーラ先生 楽しみなのか苦しみなのかわかりませんが、そうですね。その当時宣教師は五年ごとにサバティカルがあったのですが、最初の時は一九六四年から一年間アメリカに帰って私はコロンビア大学のティーチャーズカレッジで、妻はスクール・オブ・ジェネラル・スタディで学びました。次の時は、一年間宣教師団のニューヨークの事務所働きしました。この時アメリカに帰る直前に、小田先生（短大初代学長）を通して短大の学長の話があ

りました。外国人である私が管理職である学長を勤めることには実は大変な迷いがありました。というのはミッシェン・スクールの歴史を見ると戦前は宣教師が校長をやっていたが、戦後になって宣教師団は管理職はそれ以外の国の人がやるべきだと考えるようになっていたからです。宣教師団に相談して理事会が要請しているのであれば、いいのではないかということになり、一九七一年九月に就任しました。

短大学長時代

いよいよ短大学長の時代になりますね。WGクレーラ先生 当時の女子聖短大は草創期の困難な時期を過ぎ去ろうとしている時期で、学生募集もようやく軌道に乗り始めていました。

それでもいろいろとご苦労があったと思いますが……

WGクレーラ先生 台風のたびに水がでるのに本当に苦労しました。入り口の橋を一度作って壊れてまた作りなおさなければならなかったとか、今は住宅地になったあたりがいくら土を入れても固まらなかったとか、初めは相当大変だったようです。私の時も休暇でアメリカに帰っている時に留守番の学生から電話があり、「部屋に水が入っていました。どうしましょう」というようなことがありました。

かなり先進的な試みに取り組まれたと聞いています。

WGクレーラ先生 公開講座が私が就任する直前に始められましたが、それは埼玉県の学校としては早い取り組みでした。それを継続して行

Close-Up



ご夫妻が住んでいた
女子聖学院内の旧教室館

い、英会話、一般教養、コンピュータ、音楽などの講座が定着していききました。

また障害者の受け入れも積極的に行いました。中でも淑徳与野高校から来た土屋安江さんのことは忘れられません。高校時代の交通事故がもとで車イスでしたが、オグルソープ大学への短期留学も果たしました。卒業後は県の福祉事務所で働き、今はさいたま市で働いています。また関純子さんはまったく目が見えなかったのですが、短大時代にオグルソープ大学に短期留学し、その後聖学院大学に編入、卒業後アメリカに留学しました。

図書館の地域への公開も公開講座の受講生を中心に行いました。今でこそ、いろいろなところが行っていますが、これも当時は画期的なことでした。81年に本館が完成した時に蔵書管理にコンピュータを導入しました。当時、記

憶装置が80MBで三千万円した

時代でしたので、驚かれました。事務局にワードプロセッサを導入したのも早かったですね。始めは学長と事務局長のおもちゃといわれておいて良かったと思います。

それから教務にも成績管理のためのコンピュータを入れました。他に比べ女子聖学院短大のコンピュータ化は、かなり早かったと思います。

先生のパソコン好きは有名なですね。

WGクレール先生 アップルコンピュータのマッキントッシュを一九八四年に購入して、英語の教材を作りました。タイプライティングの教材はカセットテープと組み合わせたもので、正解すると先に進むようなプログラムでした。それは学長の仕事をしながら、開発されたのです。

WGクレール先生 そうです。もちろん授業も持っていましたから、忙しかったですよ。

バスの運転手もされたとか。

WGクレール先生 それは短大付属の幼稚園、いまのみどり幼稚園が出来た時です。運転手の方が一人いらしたのですが、病気などの場合は、代わりが必要だったので、そのために大型の免許を取って幼稚園バスの運転手をやりました。もちろん、普段は運転をしませんでしたが、不足の時などレンタバスを借りて運転しました。英語や国際交流のことで埼玉県への貢献も大きかったと聞いています。

WGクレール先生 よく講演会や研修会に招かれてお話をしました。また大宮市の高校の入学試験のヒアリングの録音も手伝いました。またアメリカでのホームステイ・プログラムを一九七四年に始めました。これには短大、聖学院高校、女子聖学院が参加しました。日本の外貨管理が厳しい時代で、当時は他でもまだほとんどやっていませんでした。

私が学長に就任した時にまず学生の英語の力などのくらいがブレイクメントテストを実施

しました。そのうちの成績の良かったものに、学校の費用でTOEFLの試験を受けさせたのです。そのうちの一人がかなり力があって初めてリンチバーク大学に留学しました。その時に実施したテストは24年続けてTOEFLとの比較をしながら統計を取り改良していきました。これが今のSEEP (Second Language Program) のSLEPテスト(注)に発展しました。

好きなことは

——最後に、人の好きな言葉を教えてください。
LRクレール夫人 "Tough, but oh so gentle," もしかして学校に行っていて、一人ぼっちで遊んでいる時に、新聞の折りこみ広告で見つけた言葉です。
——何の広告ですか？
LRクレール夫人 ひげそり用のかみそりの広告です。

——"Tough, but oh so gentle," もしかするとクレール先生のことですか。

LRクレール夫人 そうですね。(笑)

WGクレール先生 好きなことはという便利なこととは、「住めば都」です。というのは、よく「日本とアメリカとどちらが好きですか」と聞かれるのですが、これは私にとってなかなか答えにくい質問です。この質問から逃げる言葉として「住めば都」と答えています。

注 SLEPは、聖学院独自の英語教育プログラムのこと。実践的な英語能力向上を目指し、聖学院大学で実施しています。SLEPテストは、授業開始前に、その成績によってクラス編成がなされます。